



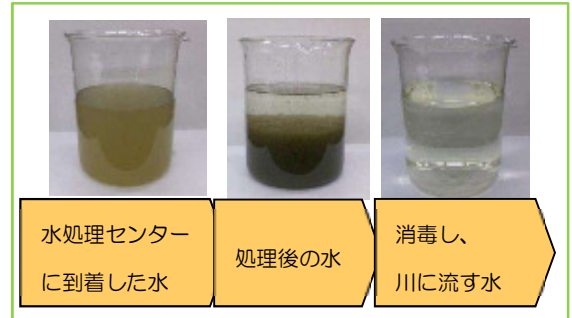
## 名古屋市の上下水道事業に関わる人に聞いてきました！ ～柴田水処理センターで働く職員へのインタビュー～



### ■水処理センターの役割を教えてください。

水処理センターはご家庭などで使って汚れた水を、微生物の力を借りてきれいに  
して河川へと流す施設です。

柴田水処理センターでは、標準活性汚泥法（標準法）と嫌気無酸素好気法（<sup>エーゾーオー</sup>A2O法）  
という2つの方法を採用し、下水処理を行っています。標準法では微生物が下水中の汚れを分解してい  
ます。一方、A2O法は汚れだけでなく、赤潮など  
の原因となる窒素やりんをより多く除去することが  
できます。標準法に比べA2O法は設備の数が多  
く複雑で、管理も難しくなります。処理を終えた水  
は最終的に薬品で消毒して河川に流しています。

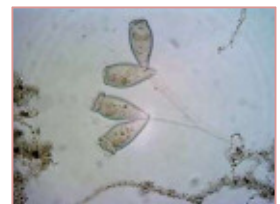


### ■職員さんの具体的な仕事内容を教えてください。

私たちの仕事の1番の目的は、適切な処理を行い、良好な水質の水を河川へと流  
すことです。中でも私は、主に処理に使う機器のメンテナンスを担当しています。  
具体的には、各処理過程や処理を終えて河川へ流す水の水質を分析することで、適  
切に処理されているかを確認し、結果を踏まえて設備の条件変更をしています。こ  
の作業を日々行うことで、水質が良くなるように努めています。

### ■苦労話や裏話、役得を聞かせてください。

汚れの分解は微生物が行っています。そのため、なかなか結果を予  
測しきれないことには苦労します。私たちの見えないところで微生物  
の状況が変わり、同じ条件でも処理結果に差が出ることもあるので、  
状況に合わせて微生物の量を調整しています。



活躍する微生物

### ■仕事でのこだわりや自負していることはありますか。

何事も自分の目で見て確かめるようにしています。設備の条件変更は主に数字を  
見て判断しますが、それだけでは不十分なこともあります。現場の状況を目で見て  
気づくことや改めて知ること多いので、自分の目で見ることを大切にしています。

### ■市民のみなさまに知っていただきたいことはありますか？

汚れた水をきれいにするために、目に見えない微生物たちが活躍していること  
です。微生物は汚れた水をきれいにして川に還す下水処理に欠かせない存在です。彼  
らは油が苦手なので、油は下水へ流さないよう、ご協力をお願いします。